

**学校法人福岡歯科学園  
福岡医療短期大学  
機関別評価結果**

**平成 20 年 3 月 19 日**

**財団法人短期大学基準協会**

## 福岡医療短期大学の概要

|       |                     |
|-------|---------------------|
| 設置者   | 学校法人 福岡歯科学園         |
| 理事長名  | 田中 健藏               |
| 学長名   | 栢 豪洋                |
| A L O | 井田 高之               |
| 開設年月日 | 平成9年4月1日            |
| 所在地   | 福岡県福岡市早良区田村2丁目15番1号 |

## 設置学科および入学定員(募集停止を除く)

| 学科     | 専攻 | 入学定員 |
|--------|----|------|
| 歯科衛生学科 |    | 80   |
| 保健福祉学科 |    | 60   |
|        | 合計 | 140  |

## 専攻科および入学定員(募集停止を除く)

| 専攻科 | 専攻      | 入学定員 |
|-----|---------|------|
| 専攻科 | 歯科衛生学専攻 | 10   |
|     | 合計      | 10   |

## 通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

## 機関別評価結果

福岡医療短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成 20 年 3 月 19 日付で適格と認める。

## 機関別評価結果の事由

### 1. 総評

平成 18 年 6 月 19 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

建学の精神から教育理念、教育目的・目標へと明確かつ具体的に示され、その発信・啓発・共有に努めるなど、教学活動の基本的理念は十分に確立されている。

教育課程は教養教育も重視し、実践的専門教育を経て、病院や福祉施設の現場で専門職として活躍する人材の育成を期して体系的に編成され、併設の六年制大学、併設の医科歯科総合病院、老人福祉施設、老人保健施設をうまく活用し教育効果をあげている。

教員は教育歴、研究業績など必要な資格・資質を有している。学生指導も学年担任と助言班制度による助言教員が連携して迅速に対応しており、授業評価アンケート結果を授業改善に反映させている。また、就職担当教員の丁寧な指導による高い就職率など、教員の総力により、きめの細かい教育サービスが提供されている。研究活動は全教員が科学研究費補助金を毎年申請するなど活発である。また、両学科共同で、口腔介護勉強会を開催し「口腔介護」を当該短期大学の共通の研究課題として取り組んでいる。

短期大学の知的資源を地域社会に還元することにも積極的であり、公開講座をはじめ、教育機関や地域の自治団体への講師派遣など評価に値する。また、学生のボランティア活動サポート教員を配置するなど、ボランティア活動を積極的に推進・支援している。

経営面では理事長を中心とする管理運営体制が確立しており、理事会・評議員会は、寄附行為に基づき、適切に機能している。教学活動については、学長のリーダーシップの下、教授会を中心として、各種委員会でも活発に協議がなされ、円滑な運営がなされている。また、事務組織の活性化に取り組む一方で、常に職員の資質能力向上を目指すスタッフ・ディベロップメント（SD）活動にも意欲的である。財政面では、学園の中期構想に基づいて毎年度の事業計画と予算を策定し、財務運営の計画性・効率性が確保され、財務内容は学校法人、短期大学ともに健全性を維持しており、おおむね順調に推移している。

平成9年の開学以降、すでに3回自己点検・評価を実施し、法令順守のためだけの、あるいは評価のための評価ではなく、自己点検・評価および認証機関による評価を教育研究活動展開のための「内省の要」と位置づけ、これに基づいて、人事考課制度において全教員が次年度に向けた目標設定を行い、その達成度を評価する試みがなされているのは、当該短期大学の改革向上に向けた意欲的な取組みとして評価できる。

## 2. 三つの意見

### (1) 特に優れた試みと評価できる事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 各学科の教育目的・教育目標がオリエンテーションやホームルームなどを通じて、日常的に、学生に周知されている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- シラバスが丁寧でわかりやすい。一般目標・行動目標・教育方法・評価法・教科書・参考書がわかりやすく記載され、各回の授業テーマに、大項目・小項目・細項目が明示され復習しやすくなっている。
- 「要介護者の口腔ケア」を実践できる歯科衛生士、介護福祉士の育成を目的に、平成12年度より両学科の相互乗り入れが開始され、その取組みが平成18～20年度の特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）として採択された。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 同一キャンパスにある併設の福岡歯科大学、医科歯科総合病院、老人保健施設、老人福祉施設の教育施設、臨床施設を有効に活用できる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 学年担任制と助言班制度を通じて、学生一人ひとりをきめ細かく指導、援助する体制がとられ、効果をあげている。

評価領域Ⅵ 研究

- 全ての専任教員が、科学研究費補助金を毎年申請するなど外部資金の獲得に積極的に取組み、実績をあげている。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 自己点検・評価を「内省の要」と位置づけて、これまでに3回実施し、実効ある短期大学の改革・改善につなげていこうとしている。また、平成17年度より、全教員が5領域（教育、管理・運営、研究、臨床、社会活動）ごとに次年度に向けた目標設定を行い、目標達成度を評価するという人事考課制度の目標設定にも関連させるなど工夫されている。

## (2) 向上・充実のための課題

### 評価領域Ⅱ 教育の内容

- 実習の授業科目については、1クラスの人数を教育効果が充分にあげられるような適当な規模とすることが望まれる。

### 評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 短期大学図書館にも将来的に司書の配置が望まれる。

### 評価領域Ⅷ 管理運営

- 個人情報保護に関する内部規程の整備に一層努められることを期待する。

## (3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

### 3. 領域別評価結果

|       | 評価領域                 | 評価結果 |
|-------|----------------------|------|
| 評価領域Ⅰ | 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標 | 合    |
| 評価領域Ⅱ | 教育の内容                | 合    |
| 評価領域Ⅲ | 教育の実施体制              | 合    |
| 評価領域Ⅳ | 教育目標の達成度と教育の効果       | 合    |
| 評価領域Ⅴ | 学生支援                 | 合    |
| 評価領域Ⅵ | 研究                   | 合    |
| 評価領域Ⅶ | 社会的活動                | 合    |
| 評価領域Ⅷ | 管理運営                 | 合    |
| 評価領域Ⅸ | 財務                   | 合    |
| 評価領域Ⅹ | 改革・改善                | 合    |

#### 評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

建学の精神・教育理念とも確立され、学則第1条、「学生の葉」、ウェブサイトなどに明示するとともに、オリエンテーション時に学生に説明するなど広く発信、周知、共有に積極的に努めている。学生名札裏面にも建学の精神が記載され定着を図っている。

学科・専攻科ごとに明確な教育目的・目標が定められ、シラバスの冒頭に明示されるだけでなく、オリエンテーションやホームルームなどを通じて日常的に学生への説明を行っており、啓発・浸透に心がけ、形式的ではなく、いきな目標として学生、全教職員で共有できるよう努力・工夫していることは評価に値する。

また教育目標の点検、見直しは学務・FD委員会が中心となっており、教授会の議を経て、最終的に理事長の承認をとる手順になっており、教学活動の確かな基盤のもとに短期大学経営がなされている。

以上のように建学の精神から教育理念、教育目的・目標へと明確かつ具体的に示され、その発信・啓発・共有に努めており、短期大学の経営・教学活動の基本的理念は十分に確立されている。

#### 評価領域Ⅱ 教育の内容

教養教育を重視し、実践的専門教育を経て病院や福祉施設の現場で専門職として活躍する人材の育成を目指した体系的な教育課程が編成されている。併設の医科歯科総合病院と老人福祉施設、老人保健施設を活用し医療・保健・福祉の現場での実践的な教育が行われ、学生にとっては自らの将来像を身近に意識することで、学習のモチベーションを高めることができる恵まれた教育環境にある。

シラバスは年度初めに学生に配布され、オリエンテーションでの説明はもちろんの

こと、各授業の開始時に担当教員が説明し、一般目標・行動目標・教育方法・評価法・教科書・参考書がわかりやすく示されている。また学務・FD委員会による授業改善のための月1回の「講演会」(勉強会)開催、学生による授業評価の結果を「学生からの意見」として取りまとめるなど授業力の向上に積極的に取り組んでいる。

### 評価領域Ⅲ 教育の実施体制

歯科医師、歯科衛生士、医師、看護師、介護福祉士などが適切に配置され、学位、教育歴、研究業績なども教員として必要な資格・資質を有した教員組織である。授業、研究、校務とも適切にバランスよく行われ教育実施の責任体制は確保されている。何より教員の総力により、きめの細かい教育サービスが提供されている。

また同一キャンパスに福岡歯科大学、医科歯科総合病院、福祉施設を有し、積極的に教育に有効活用され恵まれた教育環境である。特に福祉施設での学生のボランティア体験、介護実習などは高齢者に対する学生の意識向上に大きな効果をあげている。

### 評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

成績の評価方法は、シラバスに明記され学生に周知されている。単位認定の方法および学習評価は適切であり、単位の取得状況は徹底したきめの細かい指導により極めて良好である。また、問題を抱えた学生に対する指導も学年担任と助言教員が連携してきめ細かく対応している。授業評価アンケート結果を、適宜、担当教員にフィードバックし授業改善につなぐ努力がなされている。

国家資格の取得率は高く、検定試験による資格取得支援にも積極的に取り組んでいる。

卒業生の就職先からの評価については、就職先へのアンケート調査を実施し、教育課程などの改善に速やかに反映させている。また、教育の効果を確認するために、同窓会や公開講座を通して卒業生との接触や連携にも努めている。

以上のように教養と良識を備えた有能な人材を育成するという教育目標の達成に向けて、学生支援に総力を結集する体制がとられ教育力向上に努めている。

### 評価領域Ⅴ 学生支援

ウェブサイト、大学案内、募集要項など入学希望者への情報提供は充分に行われており、入試内容も多様で入学希望者のニーズに合ったものである。併設の六年制大学の施設を共用しているため、キャンパス内の学生生活環境は十分にゆとりがある。

シラバスや、学生便覧として「学生の葉」を配布し、学生の学習支援に役立っている。また学年担任と助言教員が中心になって非常に手厚い学習支援を行っている。最近の就職率は極めて高く、就職担当教員の努力が実っているといえる。

留学生、長期履修生、障害者は全体からするとほんの一握りではあるが、できる限り受け入れようとする意思がみられる。社会人は数名入学し優秀な成績を修め、他の学生によい刺激を与えている。

以上のように、入学から就職まで、学生が安心して学習に励み、快適に学生生活を送ることができるよう努力がなされている。

#### 評価領域Ⅵ 研究

教員の研究活動は活発であり、その活動状況は自己点検・評価報告書で公開されている。全教員が科学研究費補助金を毎年申請するなど外部資金の獲得にも積極的に取り組み、毎年、実績を上げている。また、数多くの学内プロジェクト研究を立ち上げ、学内の共同研究も活発に行われている。両学科共同で、口腔介護勉強会を開催し、「口腔介護」を当該短期大学の共通の研究課題として取り組んでいる。

研究費は、個人研究費のほかに、学科ごとの共同研究費、海外研修費、学内プロジェクト研究費が確保されている。教員の研究成果は研究紀要、福岡歯科大学学会総会、福岡歯科大学学会雑誌などに発表できる。

以上のように、授業や学務多忙の中、研究活動にも積極的に取り組み、成果をあげている。

#### 評価領域Ⅶ 社会的活動

短期大学の知的資源を地域社会に還元することの必要性を認識し、積極的に社会的活動を行っている。歯科医療と保健福祉の実践的内容の公開講座をはじめ、小学校などの教育機関や地域の自治団体への講師派遣など評価に値する内容である。また、社会人入学生の受け入れにも積極的で、毎年社会人が入学している。さらに、学生のボランティア活動も活発で、特にボランティア活動サポート教員を配置するなど、ボランティア活動を積極的に推進・支援している。

国際交流にも積極的で、留学生の派遣や受け入れはないものの、韓国の東釜山大学校歯衛生科との交流や、アメリカ合衆国ロマリンダ医療大学歯学部・歯科衛生士学部への海外研修を行っている。

以上のように社会における当該短期大学の責任を認識し、地域貢献に意欲的に取り組んでいる。また、学生の地域社会への積極的な関わりを支援し、社会人・職業人としての自覚を促している。

#### 評価領域Ⅷ 管理運営

理事長を中心とする管理運営体制が確立しており、理事会・評議員会は、寄附行為に則り、それぞれ適切に機能している。理事の構成もバランスが取れており、監事は理事会・評議員会への出席はもとより、常に法人業務全般の執行状況を掌握しており、公認会計士との意見交換を実施するなど十分な連携を図っている。

教育・研究活動全般については、学長のリーダーシップの下、教授会を中心として、各種委員会での活発な協議も含めて、円滑な運営に努めている。

事務組織の活性化に取り組む一方で、常に職員の意識改革を推進する努力が重ねられ

ている。就業規則や人事および給与規程などは、よく整備されており、これらの規程に基づき的確に事務処理がなされている。また、防災などの安全管理および健康管理、就業環境の改善などの福利厚生面でも前向きに取り組んでいる。

#### 評価領域Ⅸ 財務

学園の中期構想および法人全体の消費収支長期推計表（10年間）に基づいて毎年度の事業計画と予算を策定し速やかに関係部門に伝達され適切に執行されており、財務運営の計画性・効率性が確保されている。財務内容は学校法人、短期大学ともに健全性を維持し、おおむね順調に推移している。短期大学の経営状況は、過去3ヶ年累計で帰属収支差額および消費収支差額ともにプラスとなっており、法人の財政に貢献しているといえる。

第3号基本金の引当資産も充分保有されており、余裕資金については、将来計画を見込んで目的別に引き当て資産化しているため、財政基盤は確立されているといえる。また、財務の公開についても適切に行われている。

火災などの災害対策、防犯対策、避難対策に対処した整備および定期的な点検訓練がなされており、コンピュータシステムのセキュリティー対策も適切に管理されている。省エネ・省資源対策、そのほか地球環境保全の配慮もなされている。また、危機管理対策マニュアルを現在作成中である。

#### 評価領域Ⅹ 改革・改善

平成9年開学以降、すでに3回自己点検・評価を実施し、法令遵守のためだけの、あるいは評価のための評価ではなく、自己点検・評価および認証評価機関による評価を教育研究活動展開のための「内省の要」と位置づけ、教職員一人ひとりが評価結果を真摯に受け止め、実効ある短期大学の改革・改善につなげていこうという姿勢がみられる。現時点では、相互評価や外部評価は実施されていないが、今後に向けて意欲的に定期的な外部評価などを受ける体制を整えていく意向がある。

また点検・評価作業に今後は全教職員に参加させるという意向や、平成17年度からの教員の人事考課制度にも関連（5領域の目標設定など）させるなど、確かな短期大学の改革向上に向け非常に意欲的であり評価できる。